カーテンレール車導入

ラッピングで仙台PR

東洋メビウス

東洋メビウス（篠山健司社長、東京都品川区）は、仙台支店（仙台市宮城野区）にカーテンレールトレーラを導入した。ラッピングも施し、仙台市などと連携して取り組むペットボトルの水平リサイクルや、代表的な観光スポットなど同市をPRするデザインを採用。輸送の効率化に加え、走る広告塔としての役割を果たす。

同社は同じ東洋製罐グループの飲料受託製造のティーエムパック（湯瀬秀彦社長、同区）が製造する飲料品を、近隣の倉庫に24時間体制で輸送している。1日に20往復以上することもあり、これまで使用していたウィング車は荷台開閉頻度が高く消耗が激しかったため、大掛かりな修理が年に一度必要だった。経年劣化による車両代替えのタイミングで、セノプロトラック（瀬野博之社長、奈良市）が開発するカーテンレール車を導入することにした。

手動でスピーディーにカーテンを横方向にスライドさせる仕様で、修繕費は7年に1回のカーテン交換費用のみとなる見込み。また、あおり部分がないため、フォークリフトでの荷役作業を安全でスムーズに行えるとともに、ウィングを施設の屋根に接触させるリスクも回避できる。カーテンレール上部に雨よけを設けており、水の侵入も防げる。

ラッピングのデザインでは、21年に仙台市、伊藤園、ティーエムパックで連携協定を結んだ、使用済みペットボトルを同一種類の製品に循環利用する水平リサイクルの取り組みを紹介。東北を代表する夏祭り「仙台七夕まつり」や、仙台の代表的観光スポットでもある伊達政宗公の騎馬像も描いた。

ペットボトルの水平リサイクルの説明や仙台七夕まつりの様子などを掲載

8月26日の出発式で、篠山社長が「（水平リサイクルの取り組みについて）この活動が仙台市民に愛されて浸透し、拡大、継続することを願っている。我々は安全運転で、大切な商品を確実に届けるためにこれからも走り続ける」とあいさつ。瀬野社長は「カッコ良くて乗りたいと思ってもらえるトラックをこれからも作っていく」と話した。（今松大）